

# プログラム

## テーマ／異分野の科学が融合して健康長寿社会を創造する

10月22日(土) 13:00~17:00

### ◆セッションV パネルディスカッションⅢ (13:00~14:30) 「健康長寿のための心のケア」うつ病・自殺予防の取り組み： 眠れていますか？お父さん

健康長寿を目指すためにはこころの健康を維持する事が重要である。  
県の健康日本21計画においてもストレス解消法や睡眠への対応、自殺者の減少について具体的な数値目標が提示されている。特に自殺の原因の多くを占めるとされる、うつ病等を予防することが喫緊の課題であるとする。今回は1.睡眠の重要性と健康診断時における睡眠の状態のチェックおよびその事後措置としての保健指導について(一次予防)、2.富士モデルを含めた静岡県としてのうつ病・自殺予防対策(二次予防)、3.最近のうつ病の傾向やストレスケアに関する取り組みについて、に関して研究データや実践報告を基に発表し、今後の方向性や課題について議論する。

オーガナイザー 巽 あさみ(浜松医科大学 医学部 教授)  
コーディネーター 住吉 健一(旭化成株富士支社 産業医)  
パネリスト 松本 晃明(静岡県精神保健福祉センター 所長)  
パネリスト 山岡 功一(医療法人社団澤記念会 精神科浜松病院 理事長・院長)

14:00 討論とまとめ

### ◆セッションVI 県民フォーラム (15:00~17:00) 震災と健康～3.11震災から東海地震へのメッセージ～

15:00 座長 坂田 昌弘(静岡県立大学 環境科学研究所長)  
座長 森本 達也(静岡県立大学 薬学部 教授)  
講演1 「東日本大震災と原発事故のあとの心のケア」  
丹羽 真一(福島県立医科大学 医学部 教授)  
講演2 「東日本大震災救援医療活動～石巻市を中心に～」  
吉野 篤人(浜松医科大学 医学部 准教授・附属病院救急部 副部長)  
講演3 「東日本大震災の津波避難から学ぶべきこと」  
池田 浩敬(富士常葉大学 社会環境学部 教授)

16:15 討論とまとめ

※都合により、発表者、プログラムの内容が変更になる場合があります。

## ■参加申込方法

右記の申込書に必要事項を御記入の上、10月7日(金)までに、FAX又は郵便で「静岡健康・長寿学術フォーラム2011 実行委員会事務局」までお送りください。ホームページからもお申し込みいただけます。なお、定員になり次第締め切ります。

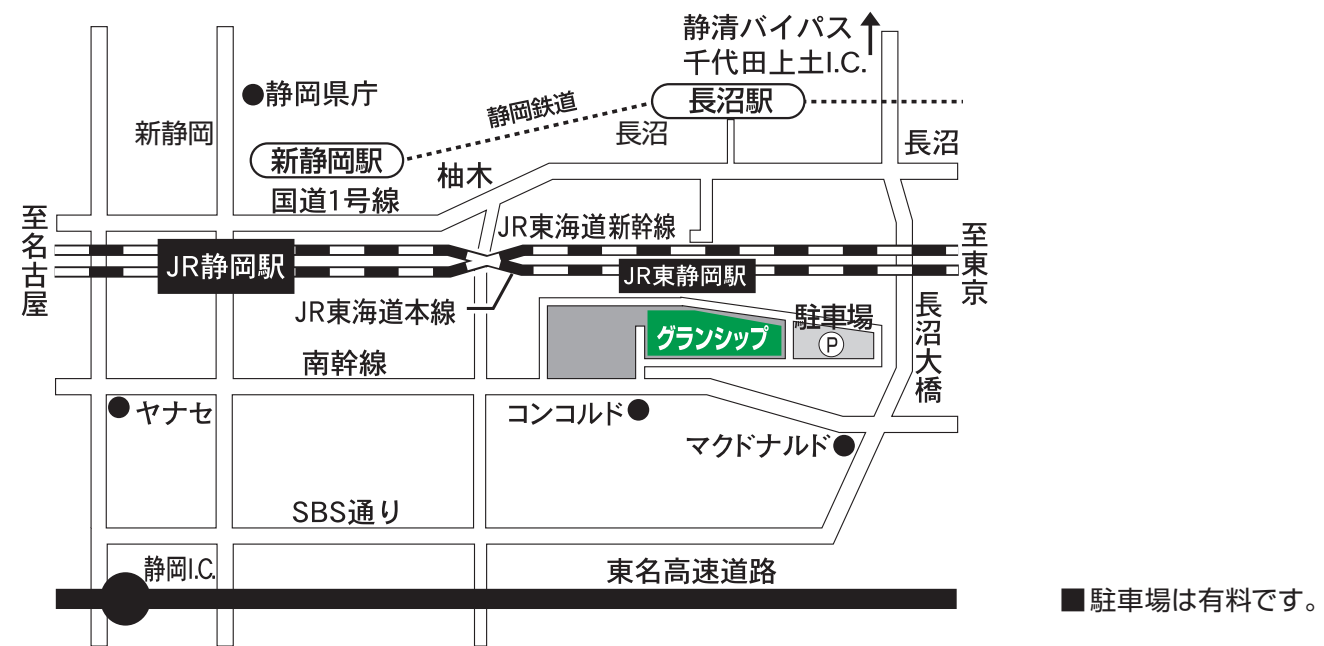
交流会へ参加される方は、当日交流会会場入口にて参加費2,000円(学生1,000円)を申し受けます。

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学 静岡健康・長寿学術フォーラム2011実行委員会事務局  
TEL (054)264-5156 FAX (054)264-5157

Eメール: tyous7@u-shizuoka-ken.ac.jp ホームページ: http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/event/forum/

●本フォーラムは、日本医師会生涯教育制度及び日本薬剤師研修センター研修認定制度の認定講座です。

■参加費 無料  
■会場 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」  
所在地 静岡市駿河区池田79-4 交通 JR静岡駅から車10分又はJR東静岡駅から徒歩1分



■駐車場は有料です。

## 静岡 健康・長寿学術フォーラム2011実行委員会

- 委員長 木苗 直秀 静岡県立大学学長
- 委員 伊東 幸宏 静岡大学学長  
川勝 平太 静岡県知事  
中村 達 浜松医科大学学長
- 顧問 神原 啓文 静岡県立病院機構理事長  
佐古 伊康 (財)しずおか健康長寿財団理事長  
廣部 雅昭 東京大学名誉教授、静岡県立大学名誉教授  
山口 健 静岡県立静岡がんセンター総長  
家森 幸男 京都大学名誉教授
- 企画運営委員 川嶋 悟 静岡県文化・観光部文化学術局大学課長  
合田 敏尚 静岡県立大学大学院生活健康科学研究科教授  
蓑島 伸生 浜松医科大学副学長  
柳沢 正 静岡大学副学長  
山田 静雄 静岡県立大学副学長
- セッション企画委員 合田 敏尚 静岡県立大学大学院生活健康科学研究科教授  
坂田 昌弘 静岡県立大学環境科学研究所長  
杉浦 敏文 静岡大学電子工学研究所教授  
巽 あさみ 浜松医科大学医学部教授  
西田 在賢 静岡県立大学経営情報イノベーション研究科教授

(委員氏名50音順、敬称略)

## 静岡健康・長寿学術フォーラム2011 参加申込書

|                      |           |   |   |     |
|----------------------|-----------|---|---|-----|
| 参加希望<br>(○印をつけてください) | 10月21日(金) | 基調講演 高齢社会と医療<br>セッションI 医薬食融合と健康長寿<br>セッションII メディカルエンジニアリングと健康<br>交流会(有料)  | フリガナ<br>お名前   |     |
|                      | 10月22日(土) | セッションIII パネルディスカッションI 地域包括ケアを支える専門職の連携をめざして<br>セッションIV パネルディスカッションII 超高齢社会と国民皆保険制度～地域の病院は誰が支えるのか？<br>セッションV パネルディスカッションIII 「健康長寿のための心のケア」うつ病・自殺予防の取り組み：眠れていますか？お父さん<br>セッションVI 県民フォーラム 震災と健康～3.11震災から東海地震へのメッセージ～ | ご職業<br>【 】研究者・教員 【 】大学院生 【 】学生 【 】医療関係者<br>【 】福祉関係者 【 】会社員(業種: )<br>【 】自営業 【 】公務員 【 】その他( ) |     |
| ご住所                  | 〒         |   | Eメール<br>アドレス  |     |
|                      |           |   | TEL   | FAX |

●御記入いただきました個人情報につきましては、本フォーラムのみに使用いたします。

御案内



# 第16回 静岡 健康・長寿学術フォーラム

## テーマ／「異分野の科学が融合して健康長寿社会を創造する」

～薬食融合、医工連携、医療経営、保健・防災～  
・薬食融合、メディカルエンジニアリング、先端医療、生活習慣病を防ぐチーム医療、地域で連携する効率的な医療経営、震災と健康等～未来への展望

### グランシップ会議ホール「風」

- 10/21 (金) ◆基調講演 高齢社会と医療  
◆セッションI 医薬食融合と健康長寿  
◆セッションII メディカルエンジニアリングと健康

- 10/22 (土) ◆セッションIII パネルディスカッションI 地域包括ケアを支える専門職の連携をめざして  
◆セッションIV パネルディスカッションII 超高齢社会と国民皆保険制度～地域の病院は誰が支えるのか？～  
◆セッションV パネルディスカッションIII 「健康長寿のための心のケア」うつ病・自殺予防の取り組み：眠れていますか？お父さん  
◆セッションVI 県民フォーラム 震災と健康～3.11震災から東海地震へのメッセージ～

## ごあいさつ

静岡県では、平成8年から「静岡健康・長寿学術フォーラム」を毎年継続して開催し、健康長寿社会に関する最新の学術研究成果の発表を行ってきました。  
開始から15年が経過する中で、がんや機能性食品等に関する研究は着実に成果を上げている一方、メタボリックシンドローム、ストレスやうつ等のこころの問題や健康長寿を支える国民保険の危機、直近では東日本大震災など、新たな課題への対応が必要となっています。  
これらの問題はその背景に大きな社会的な広がりを持っており、単に一部の専門的な研究や学術的な研究発表だけの対応は困難であり、複数の大学・研究機関と県内の健康福祉医療の実務機関と県民、関係企業が連携して対処する必要があります。  
また、そのような地域・県民参加の健康長寿社会の「しずおか型モデル」の構築の取り組みを国際社会に発信することで学術的にも大きな貢献ができると信じています。  
今回のフォーラムは、以上のような考えを元に従来のフォーラムをリニューアルし、産学民官の連携による県民全体の健康長寿の底上げを目指すスタートのフォーラムと位置付けていますので、多数の皆様、関係機関の積極的な御参加をお待ちしております。

主催 静岡健康・長寿学術フォーラム2011実行委員会(静岡県 静岡大学 浜松医科大学 静岡県立大学)  
共催 静岡県立大学グローバルCOE

後援 大学ネットワーク静岡、静岡県立病院機構、国立遺伝学研究所、(財)しずおか健康長寿財団、(財)しずおか産業創造機構、(社)日本薬学会、(社)静岡県医師会、(社)静岡県薬剤師会、(社)静岡県栄養士会、(社)静岡県看護協会 (順不同)

## お問い合わせ先

静岡県立大学 静岡健康・長寿学術フォーラム2011実行委員会事務局  
静岡県立大学 フォーラム担当 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1  
TEL (054)264-5156 FAX (054)264-5157 Eメール: tyous7@u-shizuoka-ken.ac.jp  
本フォーラムに関する情報は、次のホームページで御覧になれます。  
http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/event/forum/

# プログラム

## テーマ／異分野の科学が融合して健康長寿社会を創造する

### 10月21日(金)9:15~15:00

|      |                            |   |
|------|----------------------------|---|
| 9:15 | 開会挨拶                       | 川勝 平太(静岡県知事)<br>木苗 直秀(静岡健康・長寿学術フォーラム実行委員会委員長) |
| 9:30 | 学術フォーラムPARTIの総括とPARTIIへの期待 | 木苗 直秀(静岡健康・長寿学術フォーラム 実行委員会委員長)                |

#### ◆基調講演「高齢社会と医療」

|       |          |   |
|-------|----------|---|
| 10:00 | 座長<br>講師 | 若林 敬二(静岡県立大学 環境科学研究所 教授)<br>大島 伸一(独立行政法人 国立長寿医療研究センター 総長) |
|-------|----------|---|

#### ◆セッションI (11:00~15:00) 「医薬食融合と健康長寿」(第4回 国際健康長寿科学会議)

本セッションでは、薬学と食品／栄養科学の融合と発展をめざした新たな学問領域を展望します。  
午前中は米国カンサス大学のTimmermann博士による生物多様性資源からの新たな抗がん薬の発掘についての特別講演です。  
新しい学問領域開拓の力となる若手研究者中心のポスターセッションも企画しています。  
午後のシンポジウムでは  
(1)東南アジアでも戦略的な生物多様性資源とされているキノコから得られる認知症に効果のある機能成分の研究  
(2)緑茶成分と高脂血症治療薬の体内相互作用について国内外の共同研究  
(3)薬と栄養素の影響を総合的に判定しうる生活習慣病におけるヒトバイオマーカー研究の成果をお話いただきます。  
静岡発でかつグローバルな新たな学問領域創成の力となれば幸いです。

|       |           |  |
|-------|-----------|--|
| 11:00 | 特別講演      |  |
|       | 座長<br>講師  | 山田 静雄(静岡県立大学 大学院薬学研究所 教授)<br>Barbara N.Timmermann(Department of Medical Chemistry,University of Kansas, Distinguished Professor)                               |
| 12:00 | ポスターセッション |  |
|       |           | 今回、新たな試みとして、主に静岡県内の大学・研究機関等の研究者(若手主体)が、一堂に会し、様々なジャンルから健康・長寿科学の研究発表を一堂に行います(ポスターの前で各研究者が立って説明)。<br>専門分野が異なるため、普段は交流の無い研究者が一堂に集まり健康長寿の「異分野科学(研究)の融合」を試みるセッションです。 |
| 13:30 | シンポジウム    |  |
|       | 座長        | 今井 康之(静岡県立大学大学院薬学研究所教授・グローバルCOE拠点リーダー)・合田 敏尚(静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科 教授)   |
| 13:30 | 講演 1      | 「ヤマブシタケからの抗認知症物質とその効果」<br>河岸 洋和(静岡大学 創造科学技術大学院 教授)   |

|       |      |   |
|-------|------|---|
| 14:00 | 講演 2 | 「臨床薬理学的視点から見た薬食相互作用」<br>渡邊 裕司(浜松医科大学 医学部 教授)                        |
| 14:30 | 講演 3 | 「末梢白血球における炎症関連遺伝子発現からみた食後高血糖抑制の意義」<br>合田 敏尚(静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科 教授) |

### 10月21日(金)15:10~17:40

#### ◆セッションII (15:10~17:40)「メディカルエンジニアリングと健康」

本セッションでは、メディカルエンジニアリングの現状と将来を展望します。特別講演の菊地先生はメディカルエンジニアリングにける日本の第一人者であり、国際的にも指導的な立場におられます。健康・長寿に関する我が国の現状と政府の基本的な考え方などを含めてご講演をいただきます。招待講演1の豊島先生はメドトロニック・エデュケーション&トレーニングセンター センター長であり、医師、臨床工学士等に対する医療機器教育に携わっておられます。我が国の医療現場に近い立場からご講演をいただきます。招待講演2のイブラヒム氏はマラヤ大学の気鋭の若手研究者であり、生体化学計測・生体電気計測の専門家です。通常の動作、特にイスラムにおける礼拝時の姿勢と身体ストレスの関係についてご講演をいただきます。招待講演3の森先生はコンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティなどの画像処理の専門家であり、医療応用の研究も幅広く行っておられます。近未来の診断技術の観点からご講演をいただきます。

|       |      |   |
|-------|------|---|
|       | 座長   | 杉浦 敏文(静岡大学 電子工学研究所 教授)・椎谷 紀彦(浜松医科大学 医学部 教授)   |
| 15:10 | 特別講演 | 「健康長寿社会が求める医療のあり方ー医療技術開発と新たな医療生活産業構想」<br>菊地 眞(防衛医科大学校 副校長)<br>高齢社会の急速な進展と未曾有の大震災は、我が国におけるこれまでの医療技術開発と産業化の考え方を一変させた。従前の安定した社会・経済状況下で構築された狭義の医療形態に留まらず、今後の大きな社会変化に柔軟に対応して「安全で安心して社会生活が営める新たな医療の提供」の発想が必要である。本講演では、それらに資する最近の医療技術開発の動きと経済産業省が主導する新たな医療生活産業構想について紹介する。  |
| 16:10 | 講演 1 | 「体内植込み型装置による疾病治療」<br>豊島 健(日本メドトロニック㈱ エデュケーション&トレーニングセンター センター長)<br>体内に植込んだ装置での疾病治療法としては、ペースメーカーが広く知られているが、この他に心室細動、心不全、パーキンソン病の治療などにも拡張されており、これらについて紹介する。   |
| 16:40 | 講演 2 | 「Effect of Salat in Health and Longevity (礼拝姿勢の健康と長寿に対する効果)」<br>Fatimah Ibrahim(Department of Biomedical Engineering, University of Malaya, Associate Professor)<br>サラートはイスラム教における礼拝であり、直立、お辞儀、平伏、座位などの連続した動作から構成される。一連のサラートの動きは明らかにストレッチ体操と同じゆっくりとした適度なエクササイズの身体効果に等価と見做される。我々の研究では、サラートの動きは身体の組成、心臓循環系及び筋骨格系のバランスを向上し、心のリラックス効果をもたらすことが明らかになっている。また、同様に腰痛や心臓循環系疾患の患者あるいは高齢者等のリハビリテーションにおいても効果を発揮する。これらのことをまとめて紹介する。 |

※都合により、発表者、プログラムの内容が変更になる場合があります。

|       |      |   |
|-------|------|---|
| 17:10 | 講演 3 | 「コンピュータによる画像認識理解技術を利用した診断と治療の支援」<br>森 健策(名古屋大学大学院 情報科学研究科 教授)<br>本講演では、X線CT画像などの医療画像をコンピュータが認識・理解することによって、診断や手術などを支援する技術について解説する。CT画像などから生成する仮想的な内視鏡画像を生成する手法、大腸や小腸において病変と疑われる部位の発見をコンピュータが支援する技術、内視鏡を利用した手術をコンピュータが誘導する技術について示す。 |
| 18:00 | 交流会  | 1001-1会議室 ※ポスター賞の表彰式を含む。  |

### 10月22日(土)9:00~12:00

#### ◆セッションIII パネルディスカッションI (9:00~10:30) 「地域包括ケアを支える専門職の連携をめざして」

超高齢地域社会では、健康増進、医療、介護予防をつなげる地域包括ケアのしくみが必要だという認識が高まっています。本セッションでは、地域包括ケアにおける看護、栄養、薬剤等の専門職によるケアチーム形成の意義とそれを促す人材育成の展望を議論します。医療・介護施設でも在宅でも、保健・医療・介護におけるケアの目的はQOLの向上と健康長寿の実現です。健康長寿を支援する包括的なケアチームについて一緒に考えましょう。

オーガナイザー 合田 敏尚(静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科 教授)  
コーディネーター 佐藤 圭子(静岡県 健康福祉部 健康増進課 総合健康班 班長)  
パネリスト 野村 千文(静岡県立大学看護学部 准教授)  
パネリスト 田中 和美(神奈川県大和市健康福祉部 管理栄養士)  
パネリスト 石川 優子(静岡県薬剤師会 副会長)

|       |        |  |
|-------|--------|--|
| 10:05 | 討論とまとめ |  |
|-------|--------|--|

#### ◆セッションIV パネルディスカッションII (10:30~12:00) 「超高齢社会と国民皆保険制度」

本セッションでは、県民の皆さんに日本が人類初の大規模超高齢社会に突入していることを認識していただき、とくに医療保障という観点から超高齢社会における生活の心構えについて理解を深めていただきたいと思います。まず、座長を務める静岡県立大学の西田教授が本題の基本的な解説を行い、続いて、東京大学の橋本教授が、国民皆保険制度達成50年を迎えた日本を振り返り、今後の皆保険持続に向けた課題についてお話しいただく。次に静岡県内の地域医療に目を向けて、公立病院の役割を再度認識していただくため、志太榛原医療圏の高齢者医療を支える藤枝市立総合病院の経営課題を例に、解決指針としての公立病院間の連携について、同院の毛利院長にお話を伺う。

オーガナイザー 西田 在賢(静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科 教授)  
パネリスト 橋本 英樹(東京大学大学院医学系研究科 教授)  
パネリスト 毛利 博(藤枝市立総合病院 院長)

|       |        |  |
|-------|--------|--|
| 11:45 | 討論とまとめ |  |
|-------|--------|--|